

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 市原寮	代表者	森京子	法人・ 事業所 の特徴	法人理念である「生きる喜び明日への希望」事業所理念である『「花背（ここ）でいつまでも暮らしたい」を共に』に基づき事業運営を行い、利用者が長い人生の中で培ってこられた経験や知恵、伝統を教わることで利用者主体の暮らしや行事になるよう努め、自宅に暮らしながら地域と繋がり続ける支援を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所花友はなせ	管理者	藤井和志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	(1)人	8人	3人	1人	1人	0人	6人	0人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の申し送りだけではなかなか職員間の連携や情報共有が難しい為、今までは実施出来ていなかった毎月1回は全職員が集まるミーティングを実施することで、利用者に関して日々の関わりからそれぞれが感じたり、思っている事を話し合い、情報の共有化を図り、連携を密にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月全職員が集まる事は出来なかったが、月例会議で部署毎の検討の時間を設ける等、徐々にはあるが各職員の気づきも増え、情報共有できるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>努力して改善していていると思う。</li> <li>結果が出にくいものもあり、判断しにくい面もある。関連する報告を今後はもう少ししてもらえたら。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の申し送りや月例会議での部署ごとの検討の時間を有効に活用し、意見交換を行う。その上で三ヶ月に一度は全職員が集まる機会も設けることで、各職員が関わる中で得た情報を持ち寄り、職員によって関わり方に大きな違いが出ないように、話し合う機会を持つ。常勤職員が中心となりつつも、非常勤職員も含め全職員で取り組んで行くことの重要性を再確認する。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年より実施しているが、特に日曜日に小規模多機能の利用者が無く、事務員が休みの際に事務所に誰もいない時間帯があり、面会に来られた方等が入りにくい状況があった為、事務所不在時は玄関入口にインターホンでお知らせ頂けるよう記入した札を設置することにしている。診療所に来られた方も気軽に事業所に入り面会に来て頂けるよう、日頃からの声掛けを継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄関入口にインターホンでお知らせ頂けるよう記入した札の設置を継続している。診療所に来られた方も事業所利用者の方に面会されたり、バスの時間までお茶を飲んで過ごされる方もおられる。施設行事の際には希望される方には送迎も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に不快な音や臭いを感じる事も無く、しつらえや環境の面では特に問題はないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会時や地域の配布物等を持って来て頂いた方、診療所に来られた方にも引き続き声掛けを行い、施設で行事を実施する際も送迎を行う事で、足を運んで頂ける機会を更に増やし、気軽に事業所に入れる雰囲気を作る。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eの項目とも関連するが、運営推進会議で事業所からの報告だけに終わらない様意識して、運営推進会議や地域ケア会議はもちろん、こころほっと安心カードの更新の際に花友はなせからも参加して貰いたいとの依頼を受けたので、日程調整を行い、参加できるようにする。引き続きすこやか学級への参加も継続し、利用の相談だけではなく気軽に日頃の困っている事を相談して頂けるような関係作りを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こころほっと安心カードの更新には参加できなかったが、運営推進会議において事業所利用者以外で心配な方についての情報共有を行った。地域行事にはほぼ全てにおいて参加し、地域ケア会議にも参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりを深めていって頂いて喜んでいて。在宅から入居となると自宅や地域と遮断される雰囲気もあるが、繋がりが欲しいという思いがあり、入居した人も行事や地域の集りに参加の支援をして貰える事はありがたい。スタッフの方には苦勞を掛けるがこれからもお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ケア会議には毎回参加する。こころほっと安心カードの更新に平成29年度から花友はなせの職員も参加する。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の力を地域に活かす取組みの一つとして、花背小中学校に協力を依頼して、利用者が生徒達に伝える形での物作り（わら細工等）の企画を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議において事業所利用者以外で心配な方についての情報共有を行ったが、花背小中学校の生徒達に伝える形での企画は実現できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度から利用者以外の心配な方について、運営推進会議で議題として挙げられており、意見交換できている。引き続き情報交換を行う事で、必要であれば介護サービス等の利用に繋げたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の計画に挙げていたが実現できていない、利用者が花背小中学校の生徒達に伝える形での物作り（わら細工等）を、担当を決めて実施することで、利用者の力を地域に活かす取組みを進める。</li> </ul>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・事業所からの報告や案内だけに終わらない様意識して、個人情報に配慮しつつ、登録利用者以外の支援が必要と思われる方について、運営推進会議において毎回情報提供を求める。小規模多機能の利用に直接繋がらなくても、地域包括支援センターや地域の方と協働して支援が出来る関係作りを行う。</p>	<p>・登録利用者以外の支援が必要と思われる方について、運営推進会議において毎回情報提供を求め、情報共有を行う事が出来た。</p>	<p>・Dの項目と重なるが、平成28年度から利用者以外の心配な方について、運営推進会議で議題として挙げられており、意見交換できている。引き続き情報交換を行う事で、必要であれば地域包括支援センター等と連携し、必要であれば介護サービスの利用にも繋げたい。</p>	<p>・引き続き運営推進会議において個人情報に配慮しつつ、登録利用者以外の支援が必要と思われる方について、毎回情報提供を求める。非常勤職員にも運営推進会議に参加してもらう事で、地域の方からどんな意見が出ているのか、どんなニーズがあるのか知ってもらう。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・消防団の方や、2次通報に登録させて頂いている地域住民の方には、訓練に参加して頂いているが、それ以外の方には訓練の様子の報告のみになっている。各地区の避難所にも備蓄品等を保管されているが、花友はなせでも備蓄食品を保管している為、どのような物があるかを知ってもらう事も兼ねて、訓練実施後に試食会のような形で地域の方にも参加して貰えるような企画を行う。バスで通勤している職員は現在行っている訓練の開始時間ではどうしても訓練や講評の途中で外に出ていく形になってしまう為、出来る限り全職員が参加出来るよう訓練開始時間を見直す。</p>	<p>・バスでの通勤の職員が異動となったこともあるが、訓練途中で退勤となる事が無いよう、職員にも協力を求め、訓練に参加できるよう配慮した。地震体験車を使用している訓練を計画したが、予約が出来ず、今回は地域の方に参加してもらえる訓練を実施できなかった。</p>	<p>・先ほど消防訓練の報告もあったが、指示をしっかりと出せるように役割をきちんと決めてもらいたい。消防団も駆けつけるので、協力体制を築いていきたい。</p>	<p>・平成29年に花友はなせの所在地である別所地区で、地震体験車を使用している訓練が計画されているので、自主防災会とも連携し、訓練を花友はなせで行ってもらえる様調整する。事業計画の中で、事業所から広域避難所までの移動の訓練を挙げているので、平成29年中に実施する。</p>

